

5. ブドウ「紫苑」の果房の形を向上させる開花期の無核化処理法（情報）			
[要約] 「紫苑」の栽培において、開花期の無核化処理はジベレリン濃度を低くしフルメット 5 ppmを使用すると、従来のジベレリン25ppm単用よりも房しまりが良好で、果房の形が向上する。			
研究室名	果樹研究室	連絡先	086-955-0276

[背景・ねらい]

岡山県では近年ブドウの「紫苑」が導入され栽培面積が増加中であるが、出荷時に脱粒が多い等の問題が発生している。そこで、果房の形、小果梗の硬さを改善させる開花期の無核化処理方法を検討する。

[成果の概要・特徴]

1. 開花期の無核化処理をフルメット 5 ppm単用、またはジベレリン2.5～5 ppmの加用処理法では、慣行のジベレリン25ppm処理よりも収穫期に小果梗が短く、房しまりが良好であり、小果梗も硬化しにくい（表1、図1）。
2. 本法での果実品質は、ジベレリン25ppm処理と比べて遜色ないが、果肉はやや柔らかい（表1）。
3. 本法ではストレプトマイシン200ppm処理を開花始めの時期に行うと無核果粒率が低下するため、展葉10～11枚期に行う（表1）。

[成果の活用面・留意点]

1. 「紫苑」での満開期のジベレリン及びフルメットの開花期における適用濃度は、ジベレリンでは25ppm、フルメットでは2～5 ppmである。
2. 開花直前の花穂整形は先端部を6 cm残す。

[具体的データ]

表1 開花期の無核化処理が果実品質に及ぼす影響

ストロブマイシン 処理時期	満開3日後処理 ^z	果粒重 (g)	糖度 (Brix)	果房重 (g)	果皮色 (カラーチャート)	果肉硬度 (ハンデック)	小果梗長 (mm)	無核果率 (%)
展葉 10~11枚	ジベレリン25ppm	9.9	18.2 ac ^y	550	4.0 ab	10 abc	16.1 ac	100
	ジベレリン5ppm+フルメット5ppm	11.1	18.9 abc	601	3.3 ab	19 b	12.5 ad	100
	ジベレリン2.5ppm+フルメット5ppm	10.9	19.1 abc	633	4.0 ab	20 b	12.0 bd	100
	フルメット5ppm	11.5	19.8 b	578	4.3 ab	14 abc	11.2 bd	100
開花始め	ジベレリン25ppm	9.9	18.7 c	536	3.0 ab	7 abc	15.8 a	100
	ジベレリン5ppm+フルメット5ppm	10.1	18.7 c	586	3.8 ab	18 b	13.6 a	98
	ジベレリン2.5ppm+フルメット5ppm	11.4	18.5 c	647	3.6 ab	20 b	13.6 a	100
	フルメット5ppm	10.8	18.9 c	648	4.5 b	26 bd	11.0 bd	82

^z 肥大処理は満開15日後にジベレリン25ppmを実施

^y 異なる英文字間には5%水準 (Tukey法) で有意差あり



GA25ppm



GA 5 ppm + F5ppm



GA2.5ppm + F 5 ppm



F 5 ppm

図1 開花期の無核化処理が果房形に及ぼす影響

[その他]

試験研究課題・事業名：「紫苑」の果房管理法の確立

予算区分：県単

研究期間：平成19年度